



衣川 正介

黄銅鉱



1.8 kg 190 x 140 x 70 mm

『鉱石の道』 番外編 紀州鉱山の黄銅鉱

明延鉱山が閉山された、昭和62年（1969年）より約10年前に閉山した、紀州鉱山の黄銅鉱が入手できました。その経緯を記載します。

2015年12月11日午後に電話を受けました。『今年7月に『鉄のふしぎ博物館』を見学した者です。自宅にある鉱石を持って行きたいと思いますが、何時まで営業していますか？』事務所の彼女が『5時までと返事しました。丁寧な言葉使いの人でした。』とのこと。

夕方、ご高齢の上品なおじいさんが事務所を訪問。見覚えのある顔ですが、前回お会いした時には話をしていません。『鉄のふしぎ博物館』7周年記念事業だったので、大勢の人への対応と展示物の説明に追われていたのです。大きな鉱石を3ヶ、持ってきて頂いた彼は『2ヶは昔働いていた紀州鉱山で採取したのですが、1ヶは覚えていません。この鉱石を50年間大切に保管してきたのですが、もう年ですので、喜んで貰ってもらえる相手を探して来たのです。』そう言われました。1ヶは非常に大きな黄銅鉱の結晶を含む鉱石です。もう1ヶは石英かな、螢石かな？よくわかりません。最後の1ヶは泥板岩の中に化石を含むもののように見えます。

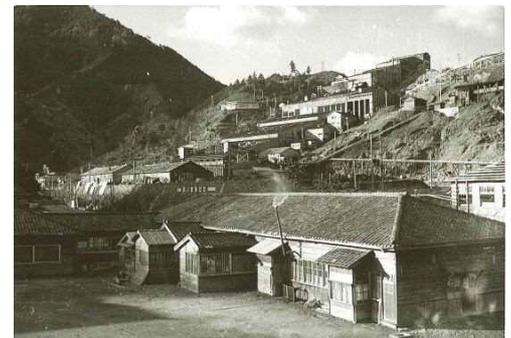
紀州鉱山をインターネットで調べました。『もりやんです』で始まるブログに判り易く解説されていたので、以下に転載させていただきます。

昔は、数多くの鉱山が日本に存在していました。和歌山県熊野市南西部に位置する紀和地区にも古い鉱山の歴史があります。紀和地区の鉱山の歴史は、1200年以上も昔の奈良時代から始まり、すでに楊枝川周辺では鉱物の採掘が行われていました。奈良時代は全国の鉱山で採れた銅は、奈良の大仏建設のために供出され、紀和地区の鉱山の銅も同様だったといわれています。2つの朝廷が争った南北朝時代には、紀和町周辺は南朝方となっており、紀和町で採れた金・銀・銅は、南朝方の秘密の軍資金であったといわれています。

昭和9年（1934年）、石原産業株式会社がこの地域に多数の鉱脈があることに着目し、この地方に存在していた複数の小規模鉱山の鉱区買収を行ったことが、紀州鉱山は始まりでした。

以来、紀州鉱山では閉山の昭和53年（1978年）に至るまでの44年間、開発初期段階や太平洋戦争後の数年間を除き、年間2000トン以上の銅を産出していました。特に鉱山全盛期の昭和40年（1965年）前後の産銅量は、年間3000トンを超えその産出量が国内屈指のものでした。

<http://blog.murablo.jp/kiwafurusato/kiji/342387.html>



選鉱場



ありし日の風景



現在の鉱山トロッコ

むらの鍛冶屋®



何でもお気軽にお尋ねください！！

石原産業（株）のこと

- 1920年 現マレーシアジョホール州スリメダン鉱山の開発のため、大阪市に合資会社南洋鉱業を設立。のちに海運業にも進出。
- 1929年 社名を石原産業海運合資会社に改称
- 1934年 三重県に銅、黄銅鉱を採掘する紀州鉱山を開設
- 1978年 紀州鉱山を閉山